

株式会社琵琶湖ホテルでの「山野草プロジェクト」

株式会社琵琶湖ホテルでは1998年の大津市柳が崎から現在の浜大津への移転を機に「環境」をコンセプトに掲げました。当初は使用する電気、紙、廃棄物の削減といった省エネルギー関連の取り組みにより環境活動を推進していましたが、お客さまに忙しい日常を離れ楽しんでいただくためのリゾートホテルでありながら、お客さまに負担をかけていることに気付き、逆に楽しんでいただこううえで推進できる環境活動を模索しました。その結果、同社では生物多様性をテーマとした2つのプロジェクトに取り組むこととなりました。

ひとつは2002年から実施している「里山の食彩プロジェクト」です。これは琵琶湖ホテルのレストランで地元で収穫した棚田米などの滋味豊かな食材を提供し、お客さまに美味しいものをたくさん召し上がっていただくことで里山環境を守っていく取り組みです。

もうひとつは、古くから食や薬として活用されてきた四季折々の山野草をホテルの敷地内で栽培する「山野草プロジェクト」です。

この「山野草プロジェクト」には2009年から取り組んでおり、ボードウォーク横に設置した、田んぼの畦をモデルにした「畦道」の長さは約155メートル、植栽の種類は約130種に及びます。季節の移ろいをきめ細やかに再現する連続性と自然のリズムを大切にガーデニングの手法を取り入れて作っています。滋賀の原風景ともいえる「里山の四季」を感じる小さな旅をお楽しみいただき、心癒される安らぎの空間としてお客さまに愛されることを願っています。山野草の前でたたずまれ、子どもの頃の記憶がよみがえり懐かしいと言われるお客さまもおられ、愛らしく花開いた山野草の草花を愛でつつ、湖からの心地よい風を感じながら、散歩を楽しむお客さまがボードウォークで増えています。



長さ約155メートルにもおよぶ「畦道」



四季折々の山野草

山野草の栽培には費用も作業も必要ですが、この山野草に昆虫たちも集まってきて里山の生態系が再現されています。

【山野草に集まる昆虫たち】



スタッフによる栽培風景

また、お客さまからの励ましのお言葉も多く頂戴しており、山野草を同社のスタッフたちは愛情を込めて栽培しています。

この「山野草プロジェクト」は、昨年10月に(財)都市緑化基金の「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」^{*}に認定されています。

※生物多様性の保全にあたっては、幅広い分野やレベルでの取り組みが必要とされる中、身近な場所での生態系・生息地の確保も重要な手段と考えられるため、企業が取り組む身近なみどりの保全・創出・活用の優良な事例を「SEGES生物多様性特別認定」100選として公表し、地球環境を視野に入れた、足元から取り組む生物多様性保全活動を推進することを目的としています。